



## 豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の徹底をお願いします

世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大・継続しており、海外渡航の自粛や感染拡大防止措置により、人・物の移動が減少している状況ですが、オリンピック・パラリンピック競技大会においては、多くの関係者が来日することが見込まれていることを踏まえ、家畜伝染病の侵入防止のため、防疫対策を徹底する必要があります。

つきましては、畜産関係者は引き続き**アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域への渡航は自粛する**とともに、以下の点に特に留意して、**飼養衛生管理基準の遵守の徹底**をお願いします。

### 1 衛生管理区域及び畜舎・家きん舎への病原体の持ち込み防止の徹底

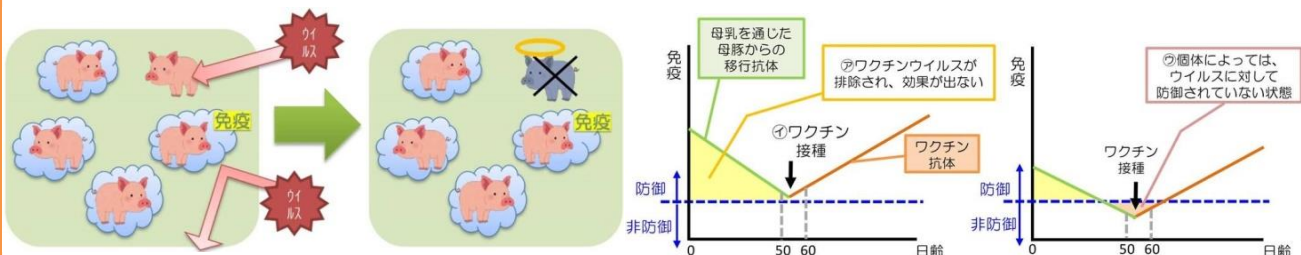
- ⚠ 必要のない者を衛生管理区域または畜舎・家きん舎へ立ち入らせない。  
また、不要な物品を持ち込まない・持ち込ませない。  
→農場への**立入禁止看板の設置、施錠**などにより対応をお願いします。
- ⚠ 衛生管理区域、特に畜舎・家きん舎に立ち入る場合や物品を持ち込む場合は、**専用手袋・靴の着用、手指の消毒、持ち込む物品の消毒等を確実に実施**する。  
→昨年度の高病原性鳥インフルエンザ発生事例や、ワクチン接種農場で続いている豚熱の発生事例では、鶏舎、豚舎へ入る際の長靴・手袋の交換や手指消毒が適切に実施されていない事例が多くみられています！
- ⚠ 病原体侵入及び感染拡大の原因となりうる野生動物の侵入防止対策として、**防護柵、防鳥ネット等を設置**する。  
設置済みの場合でも、**定期的に点検し、破損箇所があった場合は速やかに修繕**する。

### 2 毎日の健康観察、早期発見及び早期通報の徹底

- ⚠ 異状を早期発見できるよう、飼養家畜の毎日の健康観察を入念に行う。
- ⚠ 豚熱、アフリカ豚熱、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの特定症状を呈している家畜を発見した場合は**速やかに家畜保健衛生所に通報**する。

## ワクチン接種農場における豚熱が続発しています！（国内63例目～67例目）

以下の理由により、ワクチン接種農場でも全ての豚が免疫を獲得できるわけではありません。  
防疫の基本は飼養衛生管理基準の遵守徹底であるとの認識のもと、車両・物や畜舎周辺の消毒、長靴や衣類の交換・消毒による病原体の持ち込み防止の徹底、毎日の健康観察、野生動物の侵入防止等、衛生管理状況の再度の確認をお願いします。



- ① 豚熱ワクチン接種による免疫の獲得率は80%程度であること。
- ② 子豚においては、母乳から移行する免疫量が多い時期は、ワクチンを接種してもウイルスが排除されず、効果が得られないこと。また、移行免疫量が減少する適切な時期にワクチンを接種すれば効果が得られるが、個体によりその時期に違いがあることから、全ての子豚に適切な時期にワクチン接種することは困難であること。

